

コンピュータグラフィックスで再現 大溝城

織田家の城「大溝城」

現代技術で蘇る大溝城

大溝城は、織田信長が新庄城（新旭町）にいた織田信澄（信長の甥）に命じて、天正6年（1578）に築城させたもので、設計には明智光秀が携わったとされています。安土城、長浜城、坂本城と合わせて湖上のネットワークを担う、琵琶湖の支配権を掌握する重要拠点でもありました。全貌は明らかではありませんが、天守台跡と考えられる石垣が乙女ヶ池（内湖）に隣接して残っていることから、内湖を巧みに利用した水城であったことがうかがえます。天正10年（1582）に城主織田信澄が世を去った後、城主が目まぐるしく移り変わるなかで解体され、一部は水口岡山城に移築されたといわれています。

失われてしまった大溝城の当時の姿を再現するために、本市ではコンピュータグラフィックスによる再現映像制作プロジェクトが進行中です。このプロジェクトでは、直近の発掘調査報告書である

「大溝城遺跡発掘調査報告書―平成27～30年度―」を基に、城郭の設計図案を作成し、コンピュータによって立体画像化します。文化財や建築学に詳しい専門家に監修を受け、在りし日の大溝城の姿をお見せしたいと考えています。

また、この映像では大溝城の再現のほか、大溝地域をドローンによって空撮し、「大溝の水辺景観」を紹介しています。4月に開館する大溝陣屋総門で公開を予定していますので、お立ち寄りの際はぜひご覧ください。

大溝城CG（制作途中）

大溝陣屋総門位置図

文化財課 ☎(25)85559

施設休館のお知らせ

- ◎近江聖人中江藤樹記念館は、施設改修のため4月1日から令和7年3月31日までの間休館します。
- ◎高島歴史民俗資料館、朽木資料館、マキノ資料館での資料展示は、3月31日をもって終了します。なお、3館の展示資料の一部は改修後の施設で公開する予定です。

編集感

今月の表紙は二十歳のつどいのような感じです。ここ数年はコロナ禍で会場を分けて開催していましたが、久しぶりに1つの会場で一同が集まりました。当日は二十歳の参加者による漫才やバンドなどのアトラクションがあり、それぞれの思いが詰まった楽しいステージとなっていました。特集1でもそのようすの写真をたくさん掲載しているので要チェック！（K）